

## 前回専門委員会での各委員からの意見等に対する補足説明

前回委員会における指摘・意見等	対応
<p>○土屋委員 阿賀野川に床固があるが、床固とは何か。どういう理由で床固を付けているのか。</p>	資料 3 - 2 参照
<p>○花里委員 阿武隈川の上流でコイが確認されているが、温水魚のコイが上流にいるのは不自然である。コイは放流されたものなのか、自然にいるものなのか。もしかしたら個人的に放流されたものか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認されたコイのデータは、国土交通省河川水辺の国勢調査 2004 年（平成 16 年）のデータで、夏に 1 匹確認されたものである。</li> <li>・阿武隈川漁協によると、阿武隈川中流（1）の白河から阿武隈大橋までは、放流されたコイ、自然に繁殖したコイの両方が生息しており、生息している魚の種類に大きな差はない。</li> </ul>
<p>○高橋委員 全亜鉛の水質縦断分布図について、検出下限値のデータと、測定値のデータを分けてほしい。</p> <p>○土屋委員 全亜鉛の水質縦断分布図について、グラフの縦軸の目盛りについて最大値の見直しが必要では。</p>	参考資料 1 において修正
<p>○藤井委員 那珂川において、河口でサケが確認されている。生物 A と生物 B の両方の魚介類が確認された水域は生物 A にするのか。そうする場合那珂川は類型がとびとびになるのでは。</p>	第 8 回の専門委員会において、利根川河口で確認されたサケの取扱いを検討した結果、類型の判断にはサケの確認データを使用せず、イワナ・ヤマメ・カジカの生息情報により類型指定を行い、利根川河口は生物 B 類型となっているため、今回もサケの確認データは使用せず整理を行った。
<p>○高橋委員 ヨシノボリについて、ヨシノボリには上流にだけいるものと、下流にもいるものがある。</p> <p>○須藤委員長 ヨシノボリについて、出来る限り細かく整理するように。</p>	資料 3 - 3 参照 参考資料 1 において修正
○藤井委員	第 8 回専門委員会において、利根川の検討

サケなら産卵情報がかなりあるのでは。自然産卵は少ないのでは。

をした際、サケは産卵時期の温度が低い所であれば、平均水温が 15 度以上の所でも生息できるため、サケの産卵の情報は使わないとした。

なお、サケの産卵時期は、分布域の北部では8月末から9月始め、中南部では 10 月から 11 月である。

## 阿賀野川の床固について

阿賀野川は蛇行が激しい河川であったため、直線化工事が行われたが、その結果川の勾配が急になり、水の勢いが増して河川が削られやすくなった。そこで河床の勾配を変化させないために、川底をブロック等で固めて（床固）段差を作り、水の勢いを抑えている。

阿賀野川の床固には2～3mの段差があるため、魚は床固上を遡上することは出来ないが、阿賀野川における全ての床固において魚道が確保されているため河川を横断することはできる。

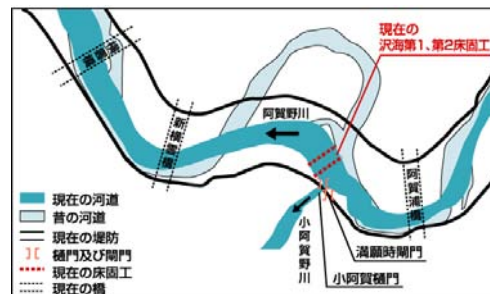
<経緯>

○大正 4 年（1915 年）第一期改修工事

沢海付近において洪水を安全に流すため、川が大きく蛇行していた部分を直線的に結ぶ工事が行われた。

○昭和 4 年から 6 年 沢海第一床固施工

直線化工事の結果、河道が短くなり、川の勾配が急になり、流れが速くなったため、沢海に床固



図：第一期改修工事による河道改修と沢海床固め

○昭和 25 年度から 27 年度 沢海第二床固施工

歳月が経ち沢海床固付近の河床が低下し、新たな床固の必要性が生まれたため、沢海第二床固が作られた。

○昭和 51～52 年 渡場床固設置

河道の安全と河床の洗掘防止のために、沢海床固の上流に渡場床固が設置された。

<参考資料>

- ・国土交通省北陸地方整備局阿賀野川河川事務所へのヒアリング
- ・国土交通省北陸地方整備局 阿賀野川水系河川整備計画（第3回下流部会資料・原案）資料－6、平成21年10月

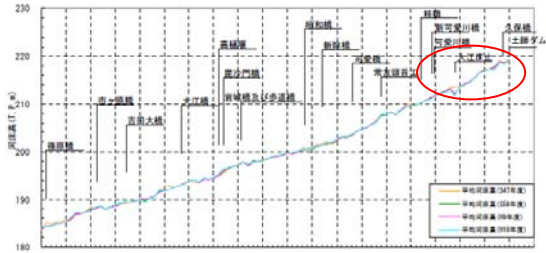
(参考) 江の川、筑後川

今回検討対象河川において、阿賀野川以外に床固があるのは、江の川と筑後川の2河川である。

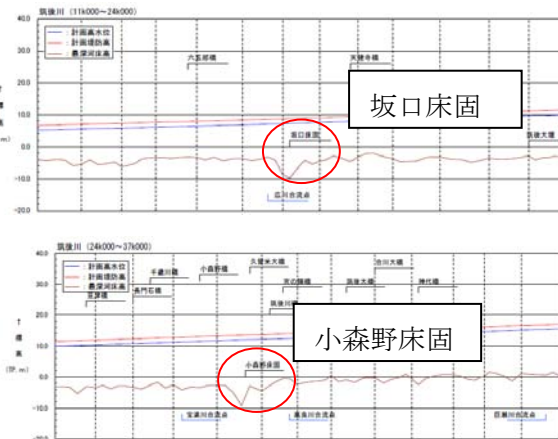
○江の川：入江床止工



図 2-1(7) 低水路平均河床高縦断面図(上)、河床変動縦断面図(下)(江の川：140K000~160K000)



○筑後川：坂口床固、小野森床固



< 参考資料 >

- ・国土交通省河川局江の川水系河川整備基本方針土砂管理等に関する資料(案) 資料10-2 平成19年8月31日
- ・国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所 筑後川水系河川整備計画 平成18年7月

## ヨシノボリ類について

今回の検討対象である 10 河川において確認されているヨシノボリ類は、トウヨシノボリ、シマヨシノボリ、オオヨシノボリ、カワヨシノボリの 4 種と、種類不明のヨシノボリである。

一方、表 1 は、第 1 次答申時に生物 B の魚介類に分類されたヨシノボリ類である。

今回の検討対象である 10 河川において確認されたヨシノボリ類のうち、トウヨシノボリ、シマヨシノボリ、オオヨシノボリについては生物 B の魚介類であるが、カワヨシノボリは河川の上流域に生息する、回遊性ではないヨシノボリ類である。そのため、カワヨシノボリについては生物 B の魚介類に分類せず、その他の魚介類に分類することが適当であると考えられる。

参考資料の「主要魚介類の確認状況」の図については、紀の川、江の川、小瀬川、山国川、筑後川については、生物 B のヨシノボリ類が確認されているので、生物 B の魚介類としてヨシノボリ類と記載し、宝満川については、生物 B のヨシノボリ類が確認されていないので、生物 B の魚介類の欄にヨシノボリ類を記載しない。

なお、これまで、カワヨシノボリを含め、ヨシノボリ類の生息状況が生物 A と生物 B を分ける際の根拠となったことはない。

表1 第1次答申時に、生物Bに分類されたヨシノボリ類

和名 (分類1)	学名	科名	生物学的分類	和名 (分類2)
回遊性ヨシノボリ類	Rhinogobius spp.	ハゼ科ヨシノボリ属	回遊性(両側回遊)	トウヨシノボリ・ シマヨシノボリ・ クロヨシノボリ・ オオヨシノボリ・ ルリヨシノボリ等 (小卵型)

表2 これまでのヨシノボリ確認情報

	生物B							その他				
	ヨシノボリ	ヨシノボリ類	ヨシノボリ属の一種	トウヨシノボリ	シマヨシノボリ	オオヨシノボリ	ルリヨシノボリ	カワヨシノボリ	ヨシノボリ類	ヨシノボリ属の一種	ヨシノボリ属の数種	カワヨシノボリ
阿武隈川水系の阿武隈川				○	○	○				○	○	
那珂川水系の那珂川				○	○	○				○		
阿賀野川水系の阿賀野川				○		○				○		
信濃川水系の信濃川				○		○						
紀の川水系の紀の川				○	○			○				
江の川水系の江の川				○	○			○				
小瀬川水系の小瀬川				○	○	○		○		○		
山国川水系の山国川				○	○	○		○		○		
筑後川水系の筑後川		○	○	○	○	○		○				
筑後川水系の宝満川												

前回資料では生物Bの欄に記載していたが、  
記載箇所をその他の欄に変更